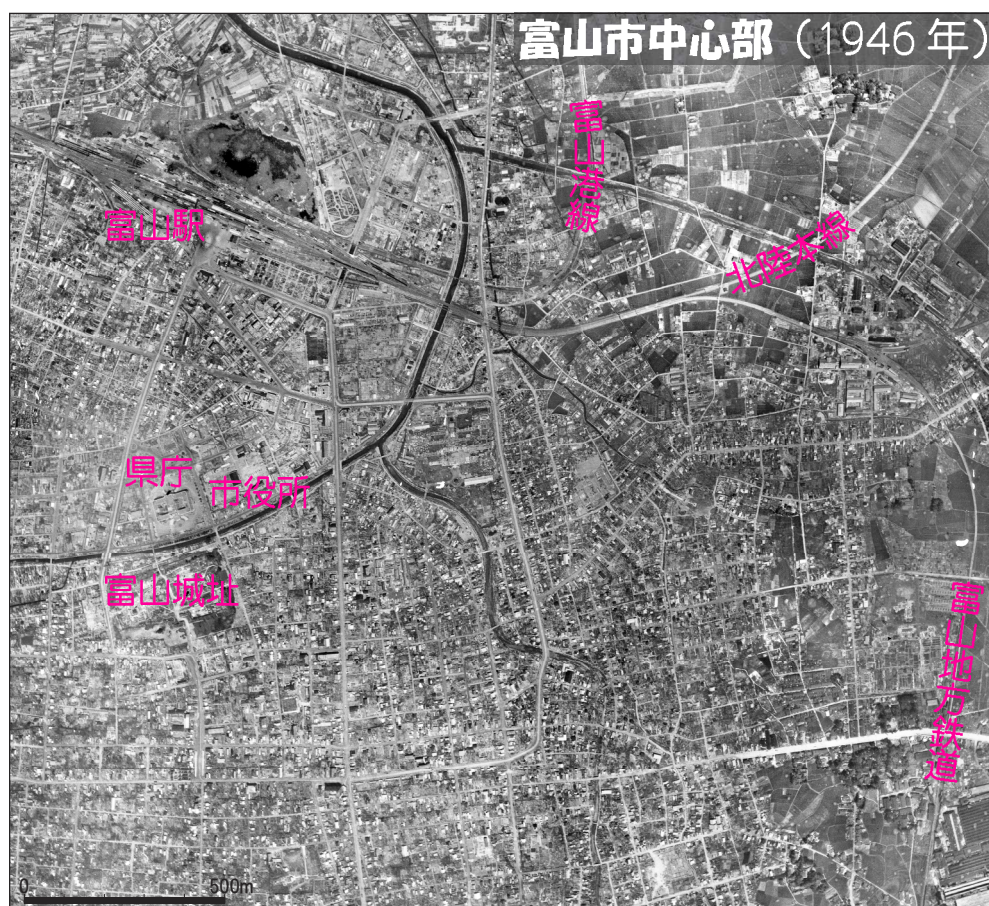
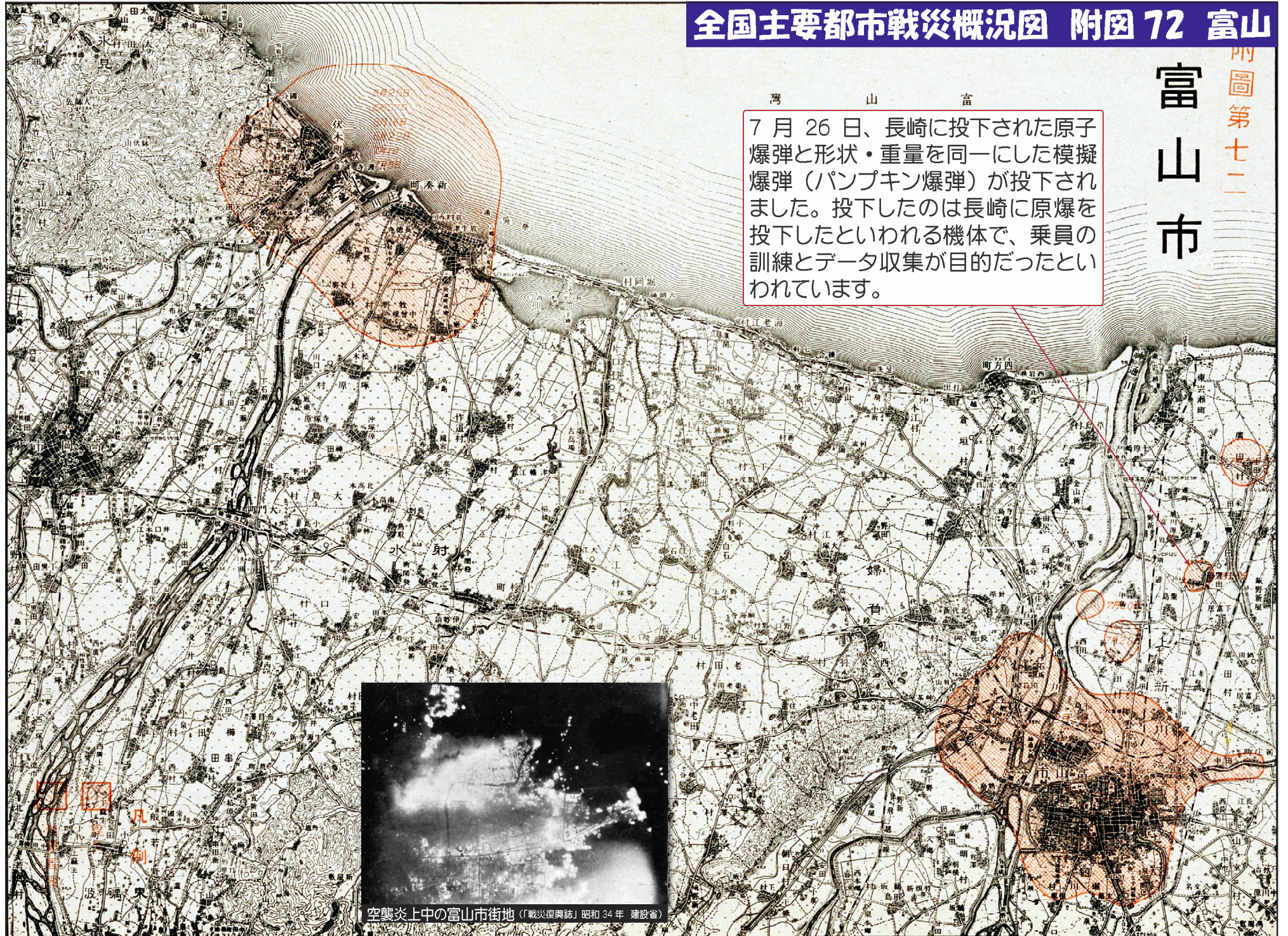


富山・・・港の機雷封鎖や終戦間際の空襲からの復興

昭和 20 年（1945 年）8 月 1 日の深夜から日付が 2 日に変わろうとしていた時間帯に、米軍爆撃機 B29 約 70 機による波状攻撃が富山市街地に向けられました。旧市街地の約 98% が焼失するという、地方都市への空襲としては、原爆被害の広島・長崎をのぞいて最大の被害となり、約 2700 人が命を落としました。この富山大空襲に先立ち、5 月から 6 月にかけて機雷投下により伏木港や新湊港が封鎖されました。

富山市の復興計画は、城下町特有の入り組んだ街並みが戦災によりほとんど焼失したため、富山駅を中心とした放射状の道路と碁盤目状の直行した道路で構成された近代的な都市づくりが図られました。また、富山湾に面した放生津潟を掘削し、現在では日本海側の国際拠点港に選定されている富山新港を建設して、これと一体となった臨海工業地帯を形成しています。



ほうじょうづ
放生津：
古くは「奈呉の浦」と呼ばれ、
風光明媚な景観は万葉集にも
詠まれています。

伏木：
古代には“越中”の国府がおかれ、
万葉歌人として知られる
大友家持も天平 18 年（746 年）
から 5 年間赴任していました。
近世には北前船の寄港地として
大いににぎわいました。

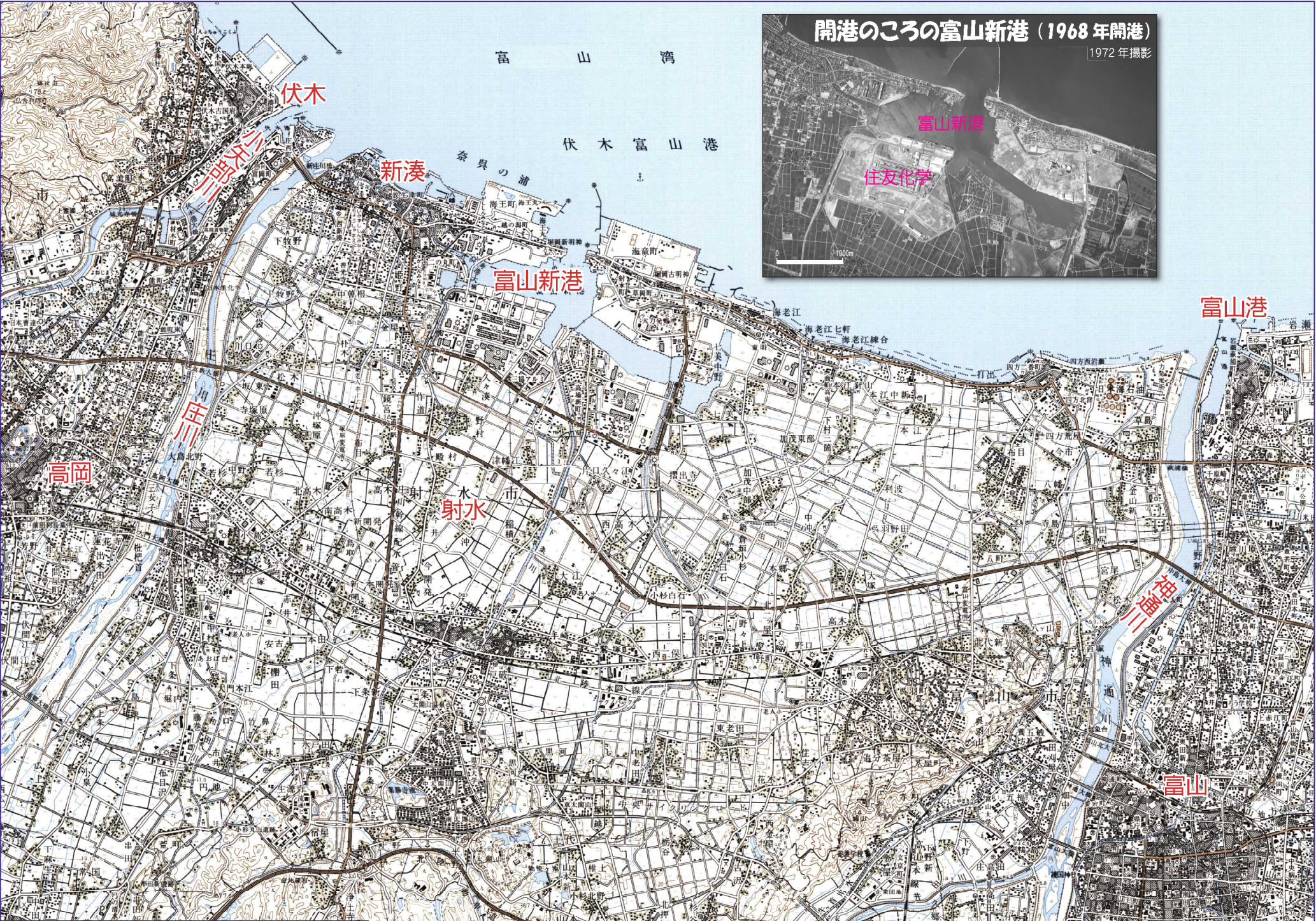
明治時代の中ごろまで、神通川は
富山城址の北側を蛇行して流れてい
て、富山駅は神通川を挟んだ市街地
の対岸にありました。
神通川の改修は明治 34 年（1901
年）に着工され、昭和 10 年（1935 年）
には旧河川敷を利用して県庁舎が新
築されました。県庁舎は、富山大空
襲にも耐えて焼失をまぬがれ、いま
も現役として活用されています。

【明治 43 年測図 2 万分 1 地形図「呉羽村、富山」】



戦前の富山市とその周辺

5 万分 1 地形図「富山（昭和 5 年修正）」（部分拡大）



平成の富山市とその周辺

5 万分 1 地形図「富山（平成 18 年修正）」（部分拡大）

開港のころの富山新港（1968 年開港）

1972 年撮影



富山港

富山